

KiKiの広場

2018年 6月 1日
cafe NO.92
KiKi



気がついたら梅雨入り、びっくりですね。びっくりと言えば、イベントホールに置きっぱなしのデンドロビュームが、いつの間にか満開になっていました。昨年夏にも復活したのですが、2~3個の花を咲かせて終わりでした。その後茎と葉だけはどんどん伸びていましたが、ちょっと油断していた隙に(笑)、いっぱいの花を咲かせてくれていました。ヒストリアの花たち(植物だけではないですよ。自分で言うなですけど・・・へへっ)は、美しくたくましいのです。



6月の予定

休館日	12日(火)
定休日	毎土・日曜日
臨時休業日	22日(金) 25日(月)



「今月のケーキ」…「フルーツロールケーキ」350円

バニラクリームにストロベリー、マンゴー、キウイフルーツを入れ、バニラスポンジで巻き上げました。バニラ風味とフルーツがマッチしたロールケーキです。見た目にもカラフルで華やかなケーキです。



今月のお気に入り…「蒸し蒸しジメジメを吹き飛ばそう!!」

～「あめのひのピクニック」「ココさんとあめふり」「おとうさんのちず」「パパはウルトラセブン みんなのおうち」など～



「あめのひのピクニック」は、楽しみにしていたピクニックが雨と聞いてがっかりのセレステーヌの為に、雨の中のピクニックに出かけるお話です。アーネストおじさんの優しさ、セレステーヌを思う気持ちが温かく伝わってきます。なんととっても、悲しくてすねるセレステーヌの仕草が、可愛いくて愛おしくて、アーネストの気持ちがわかります。「ココさんとあめふり」は、毎日てるてる坊主をお願いするココさんのひたむきな思い、手紙や宝物まで入れて大きくなってしまったてるてる坊主を心配して、看病する優しさ、幼い子どものいじらしさ可愛らしさがいっぱい詰まった絵本です。

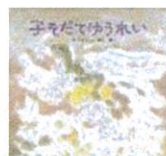


今月の本棚…「こぐまちゃんシリーズのわかやまけんの世界」

～「こぐまちゃんおはよう」「子どもだてゆうれい」「しろくまちゃんのホットケーキ」「こぐまちゃんのどろあそび」などなど～



3年前に85歳で亡くなった若山憲(わかやまけん)さんの特集です。「ぼたあん」「どろどろ」「ぴちぴち」「ぷつぷつ」「やけたかな」「まあだまだ」ホットケーキが出来上がっていくこの言葉と絵を見て、子どもたちはどれほど心躍らせたことでしょう。こぐまちゃんシリーズが生まれた時、わかやまさんの子どもさんがちょうど2~3歳で、わかやまさんの庭がこぐまちゃんの舞台だったそうです。また「こぐまちゃんおはよう」では、日本の絵本史上初めて、うんちが公然と載ったとか!(^^)! 「まだですか。まだですよ。こぐまちゃんはいにちうんちをします。」きれいな日本語だなと思います。「まだですか。まだですよ。」という掛け合いで、トイレトレーニングをした家庭も多いのではないのでしょうか。「子どもだてゆうれい」は、わが子を想う母親の切ない気持ちが胸にせまります。幽霊のお話ですが、わかやまさんの淡い抒情的な絵から、母の愛がひしひしと伝わってきます。



ほっとフレイク

先日、若い男性が1人でご来店。しばらくすると本棚の前に立たれて絵本を選んでおられる様子だったので、「絵本がお好きですか？」と声をかけました。すると、「いえ、そういうわけではないんですが、せっかく絵本がたくさんあるので、何か読んでみようかなと思って。」と言われたので、「これなんかいかがでしょうか。」と「ぜつぼうの濁点」を渡しました。ひらがなの国で長年「ぜつぼう」に仕えた「(濁点)」が、主を絶望させていたのは自分の存在だと気づき、別れを告げて新しいひらがなの主を求めて旅に出るというお話です。周りから毛嫌いされながらも最後は未来あふれる濁点にかわるという日本語っていいなと思える絵本です。じっくり時間をかけて読んでおりましたが、「絵本って難しいですね。何か作者の意図とかいちいち考え過ぎてしまって。」と言われました。せっかく読んでみようかと思ってくださったのに、もっとほっこりする絵本を選べばよかったと反省することしきりです。